

松田武彦先生を悼む

1月26日、本学会の元会長松田武彦先生が逝去されました。

筆者は、長い間同じ大学に勤務していた関係もあり、OR研究の先輩としての松田先生には、いろいろな場で親しくご指導をいただきましたが、もうあの温顔に接することもできないと思うと大変残念です。松田研究室出身者のもとより、先生のご薫陶を受けられた多くの方々と同様のご感慨をお持ちのことでしょう。

「僕は3回死に損なっているんだよ」というお話しを先生から伺った記憶がございます。1度目は、潜水艦に乗務していて爆雷攻撃を受けたのに運良く不発弾であったとき、2度目は原爆投下時刻の広島駅出張が急遽取りやめになったとき、そして3度目はアメリカ留学中に交通事故に遭って脳外科手術を受けられたときだったそうです。このように強運の先生でも病魔には勝てなかったかと思うと、本当に痛恨の極みです。

先生は、このお話しをされた後、長い入院生活の間に病院管理に関心を持たれ、OR研究を深めるきっかけにされたともおっしゃっておられたと記憶しております。また、その手術の時には大量に輸血をされたので、僕の体の中にはアメリカ人の血が流れている、と笑わせてもおられました。

その血のせいではないでしょうが、先生は正に国際人でした。ご葬儀の時、IFORS会長から寄せられた長文の弔電が披露されていましたが、そこでも、IFORS会長として尽くされたご功績に対する賛辞が述べられていました。イエール大学から授与された名誉法学博士も、幅広い交友関係を生かして国際交流に尽力されたご功績に対する賞賛の印であろうかと思えます。

入院もムダにされない研究心は、日本の経営土壌を考える上での洞察力ともなり、彼我の違いを鋭く指摘しながら「やまとことば」で表現する先生独自の組織論を作られたと思います。それは、松田学派とでも言うべきグループを育てながら発展してまいりました。本学会の中では常設の研究部会が育ち、さらには経営情報学会が創設される原動力になったと思います。

松田先生は、本学会の創立当時から、中心的な役割を演じてこられました。学会創立に先だって日科技連から創刊された「オペレーションズ・リサーチ」誌（本誌の前身）でも活躍され、ごく初期の頃の編集委員長として松田先生のお名前が残っております。

先生は本学会のほとんどすべての役職を担当されましたが、中でも特筆すべきことは、海外のOR学会との交流窓口として絶大な貢献をされたことでしょう。



今では、日本OR学会の存在感はIFORSの中でもかなりのものになっていると思いますが、その礎を作られた松田先生のご冥福を心からお祈りして、追悼の筆をおきたいと存じます。
(森村英典)

故松田武彦氏略歴

大正10年9月14日 大阪で生まれ、佐賀で育つ。

〔学 歴〕

昭和18年9月 東京帝国大学工学部造兵学科卒業
昭和25年3月 東京大学工学研究科特別研修生終了
昭和30年6月 カーネギー工科大学工業経営大学院修了

〔学 位〕

昭和37年3月 工学博士 東京工業大学
昭和60年5月 名誉法学博士カーネギー・メロン大学

〔職 歴〕

昭和18年10月 海軍技術見習尉官
昭和30年12月 東京工業大学助教授 工学部経営工学科
昭和38年10月 同 教授
昭和53年4月 同 大学院総合理工学研究科長
昭和56年10月 同 学長
昭和61年4月 産業能率大学 学長
平成8年4月 産能大学 名誉学長

〔受 賞〕

平成7年4月 TAYLOR KEY AWARD
平成8年11月 勲2等瑞宝章

〔OR学会〕

理事(無任所) 昭和32年度, 昭和36~37年度
理事(庶務) 昭和33年度
理事(編集) 昭和40~41年度
理事(国際) 昭和42~45年度
監 事 昭和34~35年度
副 会 長 昭和42~44年度
フ ェ ロ ー 昭和48年度
会 長 昭和55~56年度
名 誉 会 員 昭和58年度
IFORS 会 長 昭和49~51年度